教科等研究会（中学校道徳部会）
令和元年度　研究活動のまとめ

1　研究テーマ

かさねる　ひろがる　深まる　道徳授業のあり方 ～認め励ます評価を通して～

2　研究経過

	期　日	場　所	内　容	人数
第1回	6月7日(金)	木山中学校	○研究テーマ協議、研究計画、研究組織づくり等	8名
第2回	8月7日(水)	木山中学校	○県道徳教育研究大会分科会提案 ○研究授業指導案検討	8名
第3回	11月11日(月)	益城中学校	○小中合同授業研究会 ○研究授業 教材名:「六千人の命のビザ」 (「新しい道徳2」東京書籍) 授業者:益城町立益城中学校 吉良佳代教諭	9名
第4回	2月4日(火)	木山中学校	○実践報告、研究のまとめ、県大会報道等	7名

3　研究の概要

（1）　研究の内容

本年度の上益城郡教科等研究会全体テーマ『児童生徒一人ひとりが輝く「分かる・できる」「楽しい」授業づくり』を受け、本部会では、道徳科の時間において生徒が自分のこととして「かさねる」授業とはどのようなものかを検討した。討議の中で、これからの道徳教育では、単に「かさねる」だけでは不十分で、自分自身のことと重ねた上で、考えを「ひろげ」ていき、自己の課題を発見して主体的・協動的に探求して解決する中で、学びの成果を具体的な道徳的実践へとつなげていく「深まり」が求められるのではないかという結論に至った。昨年度の研究も引き継ぎながら、本部会の研究テーマを「かさねる　ひろがる　深まる　道徳教育のあり方」に設定した。

また、今年度から指導要録への評価を記録していくことも念頭に置き、サブテーマを～認め励ます評価を通して～とした。

第２回研究会では、熊本県道徳教育研究大会の中学校２年生部会における提案に向けて協議を行った。提案者の御船町立御船中学校　岩野　靖教諭による具体的な発表内容の一部について以下に示す。

1　研究主題

主体的で意欲的に生き方を学ぶ道徳教育を目指して ～生徒が自ら見通しをもち、主体的に取り組む道徳科の授業づくりを通して～

2　主題設定の理由

本校の教育目標は「郷土を愛し、夢（目標）に向かって、高め合う生徒の育成」である。目指す生徒像として「互いの人格を認め合い、自他を大切にする生徒」があり、本校教育目標の達成に向けて道徳教育の果たす役割は大きい。昨年度は１年生を中心に実践を行う中で、一定の成果を得られたものの、課題点も明らかとなった。特に学習への主体性は依然として課題である。また、中学生の発達段階においては、学年が上がるにつれて道徳的価値の理解が表面的になり、自らの成長を実感したり課題や目標を見付けたりする工夫が必要である。

そこで、昨年度の実践を土台として、生徒が自ら見通しをもち、主体的に取り組む道徳科の授業づくりが重要となる。以上のことより、本主題を設定した。

3　研究の仮説

（１）仮説

道徳科の授業において、自らの成長を実感したり、課題や目標を見付けたりする工夫や、主体的に学習に取り組む工夫をすれば、学習への意欲や見通しを持つことができ、主体的で意欲的に生き方を学ぶ生徒が育つであろう。

（２）具体的実践事項

ア　自らの成長を実感したり、課題や目標を見付けたりする工夫

(ｱ)　道徳開き

(ｲ)　道徳の振り返り

イ　生徒が主体的に学習に取り組む工夫

(ｱ)　書く活動の工夫

(ｲ)　協力的な指導体制の工夫

（ゲストティーチャー、ティームティーチング、ローテーション授業）

(ｳ)　体験を生かす指導の工夫

４　研究の実際

（１）実践１　道徳開き

（２）実践２　１年間の道徳の振り返り

（３）実践３　道徳科の授業実践より

第３回研究会では、小・中合同の授業研究会を実施し、道徳の授業におけるＩＣＴの効果的な活用方法や多様な考え方や感じ方と出会うような発問の工夫、自分との関わりで捉え、かさねる道徳授業の工夫等について様々な視点から意見が聞かれ、有意義な研究会となった。

（２）成果と課題

①成果

・御船町立御船中学校岩野教諭の実践に学びながら、主体的に取り組む道徳科の授業づくりについて活発に意見交換を行うことができた。

・小・中合同の授業研究会では、「自分との関わりで捉え、かさねる道徳授業の工夫」「多様な感じ方や考え方をひろげる道徳授業の工夫」「自己の生き方についての考えを深める道徳授業の工夫」について、小・中学校相互の実践を出し合い、研究テーマに沿って協議を深めることができた。今後も、小・中で連携しながら道徳教育の推進を図っていきたい。

②課題

・評価については、郡としての方向性について話し合うことができたが、具体的な評価方法についての研修が不十分であった。

・第４回の研究会は、研究の成果と課題を整理し、来年度の研究内容を検討していったが、研究会の日程が受験の時期と重なったため、全員の参加が難しかった。来年度は１月中の開催を検討したい。

４　実践事例

（１）授業の概要

本部会では、小学校と一年おきに研究授業を担当している。今年度は、中学校２年生の教科書から「六千人の命のビザ」を扱い、研究授業を実施した。

まず、授業を実施するにあたって、事前研究会を開催し、指導案を検討した。教材文の扱い方と自分との関わりで捉え、重ねるための工夫をどのようにしていったらよいのかという２点に絞って検討を進めていった。

本教材は、教材文が長く、歴史的背景の知識がないと内容理解も難しいため、事前に読ませておく方法や歴史的背景だけでも事前に教えておくことも必要ではないかという意見や２時間に分けて授業を展開したらどうかという意見が出た。今回は、事前に歴史的な知識の学習を行い、本時の学習に入っていった。

また、自分との関わりで捉え、重ねるための工夫については、事前のアンケートからボランティアを行っている生徒から話をしてもらうのはどうかという意見が出た。この意見を踏まえ、本時では、ラグビーワールドカップカナダ代表の岩手県釜石市でのボランティア活動の写真を導入で扱い、身近な国際貢献という視点から授業に入っていったり、授業のまとめで、青年海外協力隊としてボランティア活動の経験がある益城中学校職員をＧＴとして、説話を取り入れたりする工夫を行った。

（２）学習指導案

道徳科学習指導案　　指導者　益城町立益城中学校　教諭　吉良　佳代

１　主題名　垣根をこえて　内容項目Ｃ－（１８）「国際理解・国際貢献」
２　教材名　「六千人の命のビザ」（出典：「東京書籍　新しい道徳２」）
３　主題について
（１）ねらいとする内容項目（価値）について
本学習は中学校学習指導要領特別の教科道徳の内容Ｃ（１８）「世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること」を内容項目として扱う。
今日、グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発展や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となっている。私たちは、地球規模の相互依存関係の中で生きており、我が国が国際的な関わりをもつことなく孤立して存在することはできない。また、インターネットの普及にともない、これまで以上に様々な情報に触れることができる状況にある。
そこで、国籍・人種・民族が違っても国際的視野に立ち、世界の平和と人類の幸福に努めようとする心情を培いたい。
（２）生徒の実態について

どのような行動が「世界の平和や幸福のために役立つ」行動だと思いますか（複数回答） ゴミ拾いや清掃活動（6名）　募金（7名）　ボランティア活動（5名） 戦争をしない、いじめをなくす、貧しい国に物資を送る、リサイクル活動、あいさつ　など

本校ではボランティア委員会を中心にペットボトルキャップ集めを行っているため、海外へのボランティア活動に関わっているという意識が高い。本学級では、世界の平和や人類の幸福に役立つことを大事だと思い、行動に移したいと考えている生徒が１０名、大事だと思う生徒が１８名いた。また、アンケートの結果から募金活動やボランティア活動などを通して世界の平和や人類の幸福に役に立っていると感じている生徒も少なくない。こうした意識をより深め、国際的視野で物事をとらえ、人類の幸福に努めようとする心情を培っていきたい。
（３）教材について
本教材は第二次世界大戦中リトアニア領事代理であった杉原千畝さんの妻幸子さんの手記である。当時、ナチスドイツから逃れるために多くのユダヤ人がリトアニアの領事館に日本通過のビザを求めて押し寄せてきた。外交官としての立場に悩みながらも、同じ人間として困っている人を助けようとした杉原さんの姿勢は、深い人間愛に基づき、国際的視野に立った行為であると考えられる。
本教材を通して杉原さんの苦悩と決断から国や人種をこえて、世界の中の日本人としてどのように行動すべきかを考える資料であると考える。
（４）指導にあたって
○本時導入部分において、岩手県釜石市の豪雨災害に際してカナダ代表チームが清掃活動を行った記事を紹介し、日本と他国とのつながりが身近に感じられるようにしたい。
○展開前半では、杉原さんの苦悩を通して、立場や周りの状況によって正しいと思うことを行うことが困難な場面があることを理解させたい。
○展開後半では、杉原さんの決断を支えたものは何か、個人で考えた後班で交流し、多様な考えを感じられるようにしたい。
（５）研究テーマとの関わり
・展開前半では、杉原さんの葛藤に共感し、物事を自分との関りでとらえ、考えさせていきたい。（かさねる）
・展開後半では、班での意見交流を通して、杉原さんを動かした思いについて様々な視点でとらえさせていきたい。（ひろがる）
・終末では、実際にボランティア活動を経験したGTの話を聞き、自分の考えを深めさせたい。（深まる）
４　本時の学習
（１）ねらい
杉原さんの苦悩を通して、世界の中の日本人として、人類愛の精神に基づき、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与しようとする心情を育てる。

（２）展開

	学習活動 【学習形態】	○主な発問　◎主発問 ・予想される生徒の反応	○指導上の留意点	備考
導入	１　本時の学習のテーマを知る。 （１）岩手県の釜石市でのボランティア活動を知る。 （２）杉原さんのことを知る。	○何の写真か分かる人？ ・掃除？　外国の人 ・ラグビー選手 ○今日の主人公はこの人です。 ・知らない。 ・誰だろう？	○写真を提示しながら、リトアニアで一番有名な日本人であることを伝える。 	場面絵
展開【かさねる】 【ひろがる】	２　「六千人の命のビザ」を読む。 ３　杉原さんの行動について考える。 （１）同じ状況で自分だったらビザを発行するか、しないかを考える。　【個人→班】	○領事館の前に集まる人々の姿を見て、自分だったらどうしますか？ ・ビザを発行する。 ○外務省からの返事を聞いた後、自分だったらどうしますか？ 【発行しない】 ・このまま命令に従って、退去した方がいいのでは・・・・・ ・退去しなければ、家族が危険な目に合うかもしれない。 ・ビザを発行すれば、外交官としての仕事を失うかもしれない…	○人々を助けたい気持ちと自分自身の考えだけでは決断できない事態に揺れる杉原さんの葛藤する気持ちに共感させる。	ノート（ステップ1）
	（２）杉原さんをそこまで動かしたものは何か考える。 【個人→班】 補：汽車が出発するまで書き続けられたのはどんな思いからだろうか。	【発行する】 ・ビザを求めてくる人たちを見捨てるわけにはいかない… ◎昼食も取らず、朝から晩までビザを書き続けた杉原さんはどんな思いで書き続けたのだろうか。 ・困っている人を見捨てられない。 ・自分が書かないと、命をなくす人がいるかもしれない。 ・自分にしかできないことだ。	○生命尊重・責任感・使命感など様々な思いがあることをおさえる。 ○班で意見を交流し、自分の考えと比較することで自分の視野を広げさせたい。	ノート（ステップ2） ホワイトボード
	（３）今後、世界の人々と関わっていくうえで、今、自分にできることは何かを考える。	○列車に向かって何度も叫んでいる人たちを見ながら、杉原さんはどんなことを考えていただろうか。	○葛藤の末出した結果について満足していることを捉えさせる。	ノート（ステップ3）
まとめ	４　実際に海外でボランティア活動をしていた人の話を聞く。		○GT の話を聞き、国際貢献を身近なものとしてとらえさせたい。	

【評価の視点】

○　国際的視野に立ち、人類愛の精神に基づき行動する杉原さんの行動に共感し、世界の人々と尊重し合うことについて具体的にイメージして考えている。〔観察、発表、ノート〕